

事例No.14

事業名	海岸保全（高潮対策）事業	事例キーワード 景観配慮、生息環境配慮
事業担当機関	秋田地域振興局農林部農村整備課	
事業期間	平成8年～10年度	
実施場所	椿（船川港）漁港海岸 男鹿市船川港双六地内	
事業概要	全体事業費	272百万円
	工事概要	人工リーフ 1基（100m）
	事業の目的	<p>本海岸は、男鹿半島南岸に位置する第3種椿（船川港）漁港内の海岸である。当地区海岸は岩礁海岸で、海岸線背後を男鹿半島を周遊する主要地方道がとおり海食崖が海に迫る狭い土地に漁業集落が密集している。</p> <p>海岸整備は昭和46年の第1次海岸事業計画から着手しており、当初は高波による浸水被害を防止するため護岸と消波工の整備を行っている。しかし、台風時には護岸を越える激しい越波により県道が浸水し、度々通行に支障がでるため人工リーフにより沖合で波浪を制御し、護岸で越波を防護する面的防護により整備を進めた。</p>
環境配慮の内容	<p>1. 男鹿国定公園普通地域内に位置し、付近一帯は岩礁地でウミネコの営巣地（天然記念物）等貴重な自然環境にあり、生態系に配慮した計画とした。</p> <p>2. 隣接する館山崎は第一種特別地域に指定される景勝地であるため構造物により景観が損なわれないよう堤体が水面下となる潜堤構造とした。</p> <p>3. 本来の波浪防止機能に加え、ハタハタの産卵基質となるホンダワラ類藻場の発育に適した水域環境を創出する。</p> <p>4. 堤体前方部の被覆ブロックに底棲動物の生息に適した形状を選定するほか、波浪の影響少ない堤体後端部に自然石を用い、サザエ・アワビ等有用水産物の生息環境の保全に努める。</p>	
の施工状況後	人工リーフ施工完了後、堤体天端全面に亘りホンダワラ類藻場の繁茂が確認され、同時に平成に入り途絶えていた季節ハタハタ漁が再開されるなど良好な水域環境となっている。	

図面、写真、説明



人工リーフ天端に繁茂する藻場

